

政策02 明日に繋がる産業の振興

評価項目	評価
施策02 工業の振興と産学官連携の推進	概ね適切

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
<p>【施策の環境変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道経済は、依然として厳しい状況にある。 ・中小企業にとっては、消費の低迷や関連企業の倒産、事業の縮小など経済環境の変化に伴う解雇や採用凍結等雇用への影響など江別市の経済への影響が懸念されている。 ・江別市は、JR江別駅横のみらいビルへ進出した優良な業務系企業が業績を伸ばしているほか、RTNパークへの食品産業企業が進出するなど企業誘致に伴う雇用拡大が期待できる環境が進みつつある。 ・江別市の強みとして、市内6大学及び商工会議所との連携・包括協定(H21. 2)、個別協定として食加研及び酪農学園大学との協定(H21. 3)、食加研及び北海道情報大学との協定(H22. 2)を結んだことにより、地域資源を活用した共同研究に取り組むなど付加価値の高い食品開発への企業をサポートする環境が整ってきたこと。また、H23. 12にフード・コンプレックス国際戦略総合特区に指定を受け、食品加工やバイオ産業等の誘致のポテンシャルが高まったことがあげられる。 	<p>「フード・コンプレックス国際戦略総合特区に指定を受け」とあるが、この指定のメリットは何かという部分の記載が必要ではないか。</p>	<p>フード・コンプレックスのメリットに関しては、規制緩和の部分と立地した企業に対する税制支援や金融支援が大きなものとして挙げられる。表現を検討する。</p>

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
<p>【施策の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 厳しい経済環境では、中小企業の発展のために、産学官連携による市内各産業分野での協働体制づくりや支援を強化。 ・ RTNパークへの食品産業の誘致促進に向けた支援策等の構築。 ・ 工業団地の道路環境等のインフラ整備。 ・ 民間との連携による工業団地内遊休地の活用。 ・ 顔づくり事業等と連動した業務系企業の立地促進のための環境づくり。 ・ みらいビル1階の商業・業務テナント部分の早期誘致に向けた民間との連携。 	<p>工業団地が3つ存在することや、遊休地がどの程度あるのか、ということの補記を検討していただきたい。</p>	<p>検討する。</p>
<p>【施策の達成状況】</p> <p>成果指標については23年度データが公表されていなく入力できないが、22年度データを見ると、製造品出荷額等及び事業所従業者数は前年度を下回っている。</p> <p>しかしながら平成23年度においては、RTNパークで1社、アンビシャスプラザで1社の計2社の立地が実現し、また、みらいビル入居企業の業績が順調に推移し増床するなど、市が把握しているだけでも、23年度に約200人の新規雇用が生まれている。</p>	<p>環境変化によって、新たに江別にどのような変化が起きているのかがわかるような記載をしていただきたい。</p> <p>主要事業一覧にある事業それぞれがこの課題1つ1つにリンクしているのだと思うので、達成状況のところでもそのような事業に関する内容も記載した方がよいのではないかと考えています。今のままでは、成果指標の説明に過ぎない印象を受けます。</p> <p>「22年度データを見ると、製造品出荷額等及び事業所従業者数は前年度を下回っている」とあるが、原因分析が抜けているのでその部分の補記を検討していただきたい。</p>	<p>達成状況の中で、新規立地企業の業種などを具体的に記載するなど工夫することで対応できないか検討する。</p> <p>市民にとってよりわかりやすい表現を検討する。</p> <p>江別市の企業は下請け企業の数が多いため、平成20年度のリーマンショックの影響が出ているのではないかと考えている。精査して補記を検討する。</p>

担当部署の評価内容	委員の意見
<p>【意見・提言】</p>	<p>意図に「江別市内に設立して事業運営をする。」とあるが、これに対応する成果指標がないように思うが必要ではないか。</p>

江別市行政評価外部評価委員会による評価結果

政策02 明日に繋がる産業の振興

評価項目	評価
施策02 工業の振興と産学官連携の推進 基本事業01 産学官連携による技術協力ネットワークの推進	概ね適切

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
【達成状況】 平成23年度は岩手大学と地元企業との技術連携を支援し、珪藻土のコーティング技術及び色調調整の研究開発に結び付いている。	成果指標「江別経済ネットワーク等から派生したプロジェクトの数」が増加していない原因を達成状況で記載する必要があるのではないか。	成果指標に関する補記を検討する。
	「平成23年度は岩手大学と地元企業との技術連携を支援し」とあるが、なぜこの具体例だけを達成状況欄で記載しているのか。	複数の例示があった方がよいということであれば表現を検討する。

政策02 明日に繋がる産業の振興

評価項目	評価
施策02 工業の振興と産学官連携の推進 基本事業02 新規企業の立地促進	概ね適切

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
【達成状況】 ・RTNパーク、工業団地への23年度の新規立地は1件、対応協議中のものは2件ある。 ・ベンチャー企業立地に関するアンビシャスプラザへの入居は1件で、これにより6社が同プラザ8室を利用し空き室はなくなっている。 ・北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区の区域指定を受けたことにより、江別市のこれまでの取り組みと相まって、食関連企業などの誘致についての優位性が高まってきている。	RTNパークやアンビシャスプラザへの新規立地件数や入居件数に関する記載があるが、これは先ほど評価した施策の部分でもすでに記載がされており、重複している。重複させず、より詳細な記載や他の説明をしてはどうか。	施策の達成状況の欄で基本事業の内容まで踏み込んだ記載となってしまっている部分がある。基本事業の方に指摘部分の記載を残し、施策の方では「課題に対応した記載を」という指摘もあったので、その点と併せて表現を整理する。
	成果指標に「企業立地による新規雇用者数」とあるが、この人数の市内・市外の内訳について担保するデータ等があるのであれば記載があった方がよい。	補記を検討する。